子どもの人権講座　小学生対象講座

12月5日　松江市立古志原小学校４年４組　28名　先生２名

3年間の最後の講座は、初めて小学校4年生への講座です。ギャングエイジまっさかり、また高学年になる手前、難しい学年です。主張と主張が正面からぶつかったり、低学年のような諍いがあったり・・、こんな年代だからこそ、この「権利」の講座が生かされたらと企画しました。

音楽室に集まった子どもたち。なんだ、きょうは？誰このオジサン！？思い思い座りつつ、ちょっと不安そうな顔も。
北さんの自己紹介で「なんだかおもしろそう」と少し緊張がとけていく感じです。

最初はおなじみグーパーから両手じゃんけんへ。男子がはじけ一気になごみます。女子たちもクスクス笑い声がでています。

2人でババ抜き。あら、なかなか子どもたち抜けません。部屋中をグルグル走りまわりながらふたり一緒に全身で楽しんでいる感じです。ふたりで交互にじゃんけん、大きな声が飛び交い笑顔はじけるあそびの時間は、心も開放されお互いのかかわりもどんどん膨らむ時間です。

そして講座は新聞紙でのお手玉のようなボール投げ。グループになり、隣あった人に新聞で作ったボール玉を投げ渡します。簡単そうですが、上手な子ばかりではなく、思い思いの場所に玉は飛んでいきます。続きません。さあ、ここで北さんから「どうやったら長く続くかグループではなしあってみよう」と提案があります。「どこに投げてもらったらよいか、どんな工夫をしたら長く続けられるか」。子どもたちは真剣に話し合います。「玉をあっちは平べったくしていたよ、○だと転がるから」「少し高くなげたらいいが」「順番かわってみようか」「大きいボールがいい？小さいのがいい？」意見や考えが飛び交います。

「北さん、足をのばして落ちないようにしたらよいと思う」「ひとりの人が二個受けとってもおちていないんだよね?」新しいルールが生まれるのも関わりの中から、それはいいね、ありだよ、と受け入れる力もあそびの中から生まれます。相手を思い考える、伝える・・・、グループなりに次第に続く回数が伸び輝いた顔になります。

そして「アフタフバーバン公認1分間のボール投げ」が始まります。たくさんできたグループもあれば数回のグループもあります。33 回のグループがでました！でも全然できなかったのが工夫したり話合ったりのあと何回か続いたときの笑顔も宝物のように思える時間です。

「遊びは関わりの宝庫、遊びは学びの宝庫」、みんなができない人を責めたりお前ぬけろよ、などといったらみんなが「不安」になって遊べなかったかもしれない、そうだ！それやってみよう、それもいいねと「納得」して遊んだから「安心」して遊べた、誰かがすごく我慢したらその人は楽しかったか、北さんのいろいろな投げかけをします。子どもたちひとりひとりが考える時が流れます。教科書では学べない時間です。

次は「私はだれでしょう？」。男女 6 人ずつのグループに北さんから謎の紙が渡ります。そこに書かれた言葉を頼りに想像力を駆使し、「手紙の主」をグループで考えます。「手紙の主」はこの音楽室にあるものです。手紙には直接的なことはかかれていません。その「手紙の主」からの「思い」が書かれています。コミュニケーションに一番大切な想像力を養うだけでなく、グループ結束して知恵をだしあわなければわかりません。夢中になって読み始める子、言葉尻をとらえふざけ始める男子にまじめに取り組む女子、かと思えば、またグループに入り女子たちと考える男子たち。なかなか、個性的な面々のようすが出始めました。

さてこの「手紙の主」はゴミ箱、蛍光灯、マグネット五線紙など各グループ読み解きました。

さぁ、これで終わったかと思ったら、今度はこの謎の手紙を自分たちで書き、他のグループに当ててもらうのです。エ―っ！難しいよー。最初のことばがでない。でもいつも使っている「もの」の思いになって、これはどう？これじゃすぐにわかってしまう？と考える真剣な子どもたち。おや、このあそびに入らない男子たちもいます。ですが良く見ていると、本当は顔を突っ込みたい、一緒に書きたいキモチがチラチラとグループを見る視線に現れます。また、普段の体験経験はそのまま言葉に繋がるのがよくわかります。、次々と子どもらしい発想が生まれます。言葉の力はコミュニケーションの 20%といいつつ、言葉の豊かな子どもの感性は文面に表れ、おとなしそうに友だちの書く言葉を聞いてばかりかなと思うと、肝心なところですてきな言葉がその見ていた子から現れたりしました。かかわりは三者三様。文面つくりにはかかわらなくて読む大役をする男子を、受け入れる女子。自分たちの文章が披露されるときのドキドキした顔と少し誇らしい顔と。そして他のグループが当てたとき、なかなかわからないときの顔・顔。4 年生には少し手ごわい、学びとかかわり満点のなかなか面白いワークでした。

最後は一筆書きの顔。北さんの説明に笑いがひろがりさっそく描きます。

えーっ、なんじゃこれーッといいながら心で笑いながら楽しみ相手を受け入れる、自分も主張し、折り合い、そして何より安心してこの時間を 3 人で楽しむ。短い時間の学びを存分に発揮した絵ができあがりました。お互いの絵を見せあい、また大きな笑い声が響きます。どの絵もおもしろい、かわいい、と再びここで受け入れお互いを認め合う、「自分らしくいられる安心感」、人としての権利を知らず知らず学ぶ時間です。

最後に再び北さんの講義になります。小学生時代のみんなにも「権利」は身近にあること、「互いに安心、納得、その気になること」「答えはひとつでないこと」「あそびびの中には学びがたくさんあること」ｅｔｃ・・北さんは黒板に大事なことを書きながら分かりやすく伝えます。まっすぐに北さんを見つめる子どもたち。

大事な今、一滴でも心に深く染み込んでくれたら、心の深い所でキミたちのこれからの糧になれば・・・とスタッフ皆子どもたちの顔をみながら思いました。

　えーっ、もう一回したい、もっとあそびたい・・そんなことばと共に講座は終了。北さんと握手をし、別れました。
　そして後日談。二学期も終わる日。二学期で楽しかったこと、印象に残った出来事ベスト 3 に、音楽会などの大イベントと共に「北さん」と挙げた子どもたちがたくさんいたとのこと。

ぜひ来年度はもっとたくさんの学びにたくさんの小学校に広がればと思います。

・心に残った言葉
　・人と人の間、人と人との間で生きていく力
　・けんり
　・意見の違い
　・みんなで話あったときのみんなの意見「こうすればいいんじゃない？」とか「これがいいよ」とか。
　・安心
　・北さんのいう全部のことばが心に残りました
　・＜児童の感想＞
・一人ずつ顔を書くのがおもしろかったです。私は人と人との間にはいれるようにしたいです。（女子）
・北さんの勉強は遊びのようで楽しめながら学べました。ひとり一画ずつかく絵ではすっごく耳が小さくなりました。名前をつけるとき、3 人の一番はじめの字をとって「なちこ」になりました。ちょっと名前がおかしかったので 3 人で笑いました。新聞のボール投げは 33 回という記録がでたとき、他のチームだったのでくやしいようなうれしいようなでした。だけど小学校の部で古志原で新記録が出てうれしかった。（女子）
・とても楽しくできてクイズをしたりボールで遊んだり顔をかいてみんなでみたり、そしてちゃんと勉強になったので、こんな楽しい授業はないと思いました。（女子）
・あらためていろんなことがわかりました。きょうのことはずっと忘れません。（女子）
・いろいろ考えながらやるので少したいへんだったけどすごく楽しかったです。（男子）
・最後の絵が楽しかった。もう一回したいです。（男子）
・「わたしはだれでしょう？」でいろいろなテーマで手紙を作るのが楽しかった。一筆書きの絵は僕とこうせいくんの考えていたことがまったくおんなじでよかった。北さんと新聞キャッチボールをして、右回りが 19 回左が 33 回で右も左も一番でうれしかった。（男子）